

令和4年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津市 市議会
報告者	議長 丸谷正八郎 副議長 野田悦子 事務局長 東山康幸
視察日時	令和4年7月29日(金) 10:00~12:00
視察先	福岡県 大牟田市
概要	<p>議会改革の取り組みについて</p> <p>①議会改革としての活動状況 平成21年～議会改革特別委員会にて、議会報告会のテーマ設定や市民意見の分類、1年間の改革の検証と結果への対応、議会研修会のテーマ設定や講師選定及び開催、委員会審査の充実・活性化を中心に活動。平成29年5月臨時議会以降は、同特別委員会を発展的に解消し、広報広聴委員会を新設、議会広報紙や議会報告会の企画・発行・実施のほか、議会改革機能については、議会運営委員会に移行。</p> <p>②議会基本条例制定 議会機能向上のための議会改革の実施にあたり策定。市民意見の聴取、議会活動サイクルの確立、政策等調整委員会での論点の整理と集約、委員会の審査の充実、市長側からの反問権を認めること、をポイントに掲げている。</p> <p>③議会改革の検証 毎年度、各章ごとに実施。令和3年度分は、R4年6月事務局たたき台検証案を協議し正副委員長案を作成。議運委員会で説明し、各会派の意見等を集約・調整の上、6月末、議運委員会で案を検証、協議・調整後(加筆・修正)、同委員会です承している。条例制定から10年目の総括として、3年の作業期間を経て、R3年度に公表。</p> <p>④議会報告会 毎年市民の関心が高いと思われるテーマを選定。前年の報告会で出された市民意見への取組経過も報告している。コロナ禍では、議員を3班に分け、1開催当たりの市民の参加人数・時間も縮小し、意見交換会形式となっている。市民からの意見・要望・疑問などへの答弁は全身体制とし、市の施策等に関する質問には、所管の委員会所属議員が答弁する。また、学生との議会報告会では、全4回・56人参加があり、学生から出た意見や要望について広報広聴委員会で取り纏め議長から市長要望している。</p> <p>⑤議会改革の展望と課題 会派の枠を超えた議員同士の意見交換の活性化、常任委員会の活性化、コロナ禍の議会報告会の開催方法について、従前の開催方法とする時期、学生との報告会の継続、他団体との開催、参加者の年齢・性別などのバランスを取ることが課題。など上記一連の説明を受けた。</p>
所見	<p>議会改革の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例のポイントとなる市民意見の聴取(議員間討議)については、市民と議会の在り方、市民意見の聴取を議員ではなく議会で受け止め、関係委員会などで調査・検討を行っている点、市の新たな計画に対する市民の意見を聞き取り政策等調整委員会から議員間討議について常任委員会への開催要請を行い、議会としての意見を市長へ申し入れしているなどの取組みが素晴らしく、本市では出来ない議員間討議に時間をかけていること、また、異なった視点の議員間で、お互いの意見をまず聞く、その上で一致して申し入れすべき点を探るなど、できる議会へと進化したいと思った。 ・議会基本条例・議会改革検証について、条例制定から10年目の総括を行ったことは参考になった。現在本市においては初めての議会基本条例の検証を行っていますが、基本は会派意見を議会改革検討協議会へ持ち寄っての調整となるので全議員が関わって進めている形で、時間はかかるがより多くの意見が盛り込めると感じている。 ・議会報告会では、班ごとに市民意見の集約・分類を行い、他の会場で出た意見も共有し、議員間討議から市へのアプローチにつなげることで、市民との信頼関係を醸成するに至っていることが素晴らしいと感じた。 ・一例として説明のあった市庁舎整備予算の修正と関係議案の否決や、その後当局のさらなる検討へとつながる取組みは、議員間の信頼関係、活発な議員間討議、議会一致での市への要望などを積み重ねてきたからこそであり、本市でも取り入れたいとの思いを強くした一方で、市当局への意見・要望については、各自治体の市長と議会の関係性によるところが大きく影響し、現在の本市議会では、議会議員全員の総意を取っての意見・要望等を纏めることは難しいと感じるところである。